

# THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



なごや  
ちくさ  
WEEKLY

名古屋千種ロータリークラブ  
承認 1982年  
例会日 火曜日 12:30  
例会場 愛知厚生年金会館  
事務局 千種区池下一丁目4番18号  
井上ビル4F D号  
Tel 763-5110  
会長 水野民也

No.28 (1982~1983)

MANKIND IS ONE-  
Build Bridges of Friendship  
Throughout the World

人類はひとつ  
世界中に友情の橋をかけよう  
1982~83年度 R I 会長 向笠 広次

## 第28回例会 昭和58年3月1日(火)晴

◇“君が代” “我等の生業”

◇出席報告

会員 48名 出席 43名

出席率 93.75%

◇前回 2月22日(修正出席率) 97.92%  
make up

深見君(2/23名北), 久保田君(2/28空港), 黒須君(2/26守山), 日下君(2/25北), 水野(賀)君(2/28空港), 大谷君(2/21中), 笹野君(2/23名北)

◇ビジター紹介 5名

◇誕生日祝福

谷口夫人(3/1), 松居夫人(3/2), 堀場夫人(3/6), 水野(民)夫人(3/6)

◇ニコボックス

松居君(国府宮のはだか祭りに行って厄よけしました), 橋本君(ブラジルから無事帰国しました), 三輪君(本日卓話させて頂きます), 谷口君(夫人誕生祝), 松居君(夫人誕生祝), 堀場君(夫人誕生祝), 水野(民)君(夫人誕生祝)

◇松居幹事報告

1. 本日例会終了後, 新入会員の教育を行いますので, 案内をいただいた方はこのままお残り下さい。
2. 先週の理事会で話された事ですが, 当クラブの出席率が良くないので, 例会欠席の際は他クラブへのメーキャップを必ず行う事, 又出来る限りホームクラブに出席する(50%以上)よう決定致しましたので御報告申し上げます。
3. 来たる5月12日(木)に春季会員・夫人懇親旅行会を行うことになりましたので多数御参加下さい。親睦活動委員会の方々は今週例会終了後, 旅行会の打合わせがありますのでお残り下さい。

◇竹内国際奉仕委員長報告

国際大会(トロント)旅行の参加者が当ク

ラブ内で14名集まりました。つきまして3月15日例会終了後, 説明会を行いますので御出席下さい。

◇水野(民)会長挨拶

本日は出席について一言申し上げます。今までも機会あるごとに出席について申し上げてきましたが, 私の話しが厳しくなかったようで, 「出席こそロータリーの本質を知り, Rtnとしての第一歩である知己を増し, 奉仕の気運もそこから始まる。」という事を心に留めていただきたいと思います。

先週の理事会でも話しが出ました。新RCであり新入会員であれば, ホームクラブ100%が必然であり, make up は言うまでもなく, RCの出席率100%を考えるべきだと叱られてしまいました。例えば1月の出席率をみると100%出席率が尾張第1分区で6RC, 第2分区で8RC, 三河, 南信で6RC, 地区で21RCであり, 我がクラブより上位が50RCもあり新生RCとしては恥ずべきことです。この3月から6月まで100%を続けられれば, 平均99.0%以上になり面目がたつかと思えます。

欠席された時は例会の前後1週間ずつの余裕を十分に活用して make up して下さい。できるだけ例会の前の週に make up されると良く, 明日, 次の日と延ばしているとすぐに欠席の赤い印を押される日が来てしまいます。

海外に長期間行かれる場合も, 157カ国いたる都市で例会が開かれていますので事務局にお問い合わせ下さい。今回トロント国際大会に行かれる方々も, その間 make up という形になりますが, どうぞお忘れなき様に国内に限らず現地でも機会をお作りになれば幸いです。

◇講演

“歯科の材料（お歯黒のルーツ）”

会員 三輪 康 君

天文12年（1543）から寛永17年（1640）まで、日本を訪れた外人宣教師や商人がローマの修道会本部に送った報告書のなかに、お歯黒のことが載っています。



「この国の女性は美しいが、やや青白い顔をしている。眼は小さく、大きな眼より小さな眼の方が美しいと思われる。歯は一種のニスで黒く染めているので、口の中はまるで暗い洞窟のような感じがする。貴族の男性も15歳になると歯を染め、女性は結婚して歯を黒くし、同時に髪も黒々と染めあげる。」

お歯黒の起源は不明でいろいろの説がありますが、その一つに南方伝説があります。

日本にきた南方民族は、移住後も檳榔樹（ベテル）の実を咬む習慣を続けたものの、日本の風土はベテルの育成に適さなかったためベテルは貴重品となり、貴人でなければこれを用いることができず、そのため実を咬んで黒くなった歯と赤い唇、そしてベテルの葉を耳に飾ることが富貴を意味するようになったといわれます。そしてベテルの実の入手困難なことから、これにかわるものとして染料が考案され、鉄漿となったというのです。

お歯黒は江戸時代においては、一般庶民のあいだでも広く普及していたようですが、武士が最初に歯を染めるようになるのは、平氏が京都に入って公卿をまねたのがはじめとされていますが、お歯黒が女性の結婚したしるしとなるのは、江戸時代に入ってからです。

江戸時代のお歯黒のついた頭骨がいくつか発見されていますが、いずれもムシ歯がみられません。歯がきれいでなければ鉄漿がつかないことや鉄漿で歯面がカバーされるためではないかと思われます。

こうしたお歯黒も人工歯いわゆるお歯黒陶歯として昭和25年まで製造されていた歴史はありますが、明治3年には公卿華族に対して「華族自今元服の輩、歯を染め肩を払候儀、停止被仰出」が出て、同6年皇后はお歯黒を落し、宮女もこれにならったといわれます。この傾向は次第に庶民にも浸透していきますが、地方によってはなかなか旧習の勢いも強かったようで、昭和の初期頃までは、かなり全国的に普及していたようです。

（祝）佐野君、文化賞受賞決定

芸術文化の各分野顕著な業績をあげ、さらに将来の活躍が期待される人たちに贈られる「愛知県芸術文化選奨」の57年度受賞者が3月1日に決まり、当会員の工芸家・佐野寛君が文化賞を受賞されました。今後の一層の御活躍を期待します。授賞式は12日、東区の愛知会館で。

公式訪問を終えて

…折返し点に立つ…

ガバナー 大隈 孝一

88カ所めぐりであった公式訪問も、分区代理や、各クラブの会長はじめ皆様の好意に満ちたご協力によって、予定通り1月下旬に無事終了することが出来ました。厚くお礼申し上げます。

ガバナーの仕事も、これで殆ど終わったようなものだなとぐさめて下さる方もありますが、私自身は、丁度、マラソンでいえば、折返し点に立ったような心境であります。

と申しますのは、スケジュールに追われて過ぎてきた毎日は、それなりに、ハードワークでありましたが、ふり返ってみますと、私が何かを申し上げたというよりは、皆様のお考えを伺った機会であって、いわば、ガバナーとしての取材活動であったかと思えます。

今後は、これらを取りまとめ、われわれロータリーの今日の問題点と将来の展望を、私なりに何と打ち立てるべき時機であるように考えます。

公式訪問は、ガバナーとしては、やらねばならぬことですから、何とかこなし参りました。しかし、問題点の取りまとめや、今後の展望の想を練ることは、何をとりあげるか、或いは、何をとりあげないのか、という幅広い選択でありますから、かえってむつかしいことだと、頭を悩ましているのが、今の気持であります。

かねがね、私は、企業においても、不況のときよりも好況のときの方が、よりむつかしいと思っております。それは不況よりも、好況のときの方が、決断すべき事項の選択の余地が多いからです。

公式訪問を通じて、いろいろの問題の芽を感じます。せっかくのこれらの素材を抱えて、何とかお役に立ちたいと思っても、私如き者に、如何ほどのことが出来るだろうかと、いささかおじけづいて、折返し点に立っているところであります。

（ガバナースレターより）

◇次回例会（3月8日）

卓話 “建設業について”

会員 水野賀續 君

卓話 “遺言の話”

会員 西川豊長 君

◇次々回例会（3月15日）

卓話 “私と彫金”

会員 佐野 寛 君

卓話 “とかげのしっぽと歯の話”

会員 大口 弘和 君